

平成 16 年度 第 5 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 17 年 3 月 14 日 18:30～19:50
市民活動サポートセンター

出席委員 11 名……柴崎、新井、石塚、伊藤、江口、佐藤、四分一、田中、細川、松澤、水谷
事務局 3 名……YMCA よこすかコミュニティサポート 高村
市民生活課 小座野、小番

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

(1) 市民公益活動団体について、提案どおり承認した。

[意見概要]

利用者の声について

(事務局)

2 月分の利用者の声については集計の関係で、次回の運営委員会で提示する。

(柴崎委員)

印刷機音の回答にある無料の会議室とはどういうところがあるのか？

(事務局)

地域市民活動サポートセンターや地域自治活動センターなどで、受付で会議室の一覧表を提示できるようにしてある。

おきびき事件について

(事務局)

2 月 7 日 18 時 30 分から 40 分頃に交流サロンで、利用者がトイレにいつている間に高級ショールをおきびきされた。サポートセンターに利用者からの報告があったのが 2 月 10 日だったため、そのときどういう状況だったかということとははっきりしていない。利用者に施設内での安心感が大きいいためか、荷物をおいたまま席をはずす人が多い。事務局も引き続き注意を呼びかけていくが、利用者も気をつけてほしい。

(柴崎委員)

盗難注意の札等が出ているが、荷物の置き放しに気がついた時点で、利用者同士が声をかけあって注意をしていきたい。

のたろんフェア 2005 について

(事務局)

資料 4 のとおりの報告内容となっている。感想・意見・提案にあがっていることを参考に来年ののたろんフェアに向かいたい。さまざまある意見のうち、開催時期の変更については、2 月の開催が既に定着していること、暖かい時期だと各団体の活動に重なっている可能性が高いことなどから、変更せずにおきたい。いろいろな課題はあるが、全体としては、フェアを通して各団体の交流をは

かるという当初の目的は達成できたと思う。

(柴崎委員)

実行委員として参加した四分一委員と細川委員から何かあれば。

(四分一委員)

準備を進めていく中で、当日になって実行できなかった企画があったのが残念だった。企画が確実にできるかどうかの見極めが必要だと思う。

(細川委員)

ミニ体験コーナーを担当した。団体によって体験内容がことなるため、コーナーの設置場所をみんなが納得できる場所にするのは難しい。コーナーの設置目的によってにぎわいのある会場の中心にするのか、静かな会場の端にするのかが決まってくる。

(四分一委員)

市民活動ステージやミニ体験コーナーに参加する団体の発表内容は、人によって捉え方が違う。参加団体のプログラム内容を事前に確認しておけば、もっと内容にあったステージ配置ができたかと思う。

(柴崎委員)

実行委員会では大学生など若い人が頑張ってくれたのが嬉しかった。

春の市民活動体験について（中間報告）

(事務局)

15プログラム、11団体の参加で現在、9つの団体の体験が終了した。開催期間を2月から3月に変更したことで、去年に比べて参加団体数が減少しているが、小中学生がボランティア体験ができるよう春休み期間を視野にいれて、当面は3月開催のままとし、春の市民活動体験を定着させていきたい。

ロッカー・レターケースの応募状況とレターケースの使用取り消しについて

(事務局)

ロッカー・レターケースの応募状況は資料5に提示しているが、3月13日現在の応募数は、ロッカー(大)30団体(内新規5団体、継続25団体)、ロッカー(小)49団体(内新規4団体、継続45団体)、レターケース79団体(内新規5団体、継続74団体)となっている。前回の運営委員会で意見としてあがったレターケースの取り消しについては、ロッカーと同じ考え方で資料5に示してある手順で行いたい。連絡がつかず、まだ平成16年度の継続手続きが行われていない13団体についても、今回の手順であわせてレターケースの使用取り消しを行いたい。

(柴崎委員)

連絡がつかないとはどういう状況か？

(事務局)

手続きの案内等を郵便で出しても戻ってこないのでは案内は届いていると思われるが、電話がつながらず利用団体からの連絡もない状態である。

(柴崎委員)

郵便が届いているのなら、こちらからの連絡はついているものとして、手順に基づいて最終的にレターケースの内容物を処分してもかまわないと思う。(他の運営委員からの異議なし。)

平成17年度運営委員応募状況について

(事務局)

これまでのところ、10名の応募に対してまだ定数に欠ける状況。前回の運営委員会で提示した改選手順により広報を行ったほか、のたろんフェア2005交流会や報告会、サポートセンター利用者に口コミで呼びかけをしている。事務局としては、多数の応募の中から新旧おりまぜて委員を選出したと考えているので、15日の応募締め切りまで呼びかけをしていく。

市民公益活動団体について

(事務局)

資料6に提示している。登録団体の削除理由はファクスを使った連絡などで確認できないものもある。事務局としては、削除理由の追跡もできればと思っている。

その他

(事務局)

広報よこすかお知らせ版2月25日号に市民協働審議会委員の募集記事をのせているので、運営委員の方たちにもぜひ応募を考えていただきたい。平成17年度市民協働推進補助金については、議会承認後に確定となるが、4月17日(日)10時から12時30分に平成16年度実績報告会を兼ねた説明会をヴェルクよこすかで、4月18日(月)18時30分から21時にサポートセンターで説明会を開催予定である。募集記事については、広報よこすかお知らせ版3月25日号に掲載を予定している。また、企画提案型モデル事業として、中心市街地防犯フォーラムを3月25日(金)に開催するので、委員の方たちにも是非参加していただきたい。

(柴崎委員)

防犯フォーラムの周知はどのようになっているのか？

(事務局)

町内会への周知や商工会議所経由で事業者へ周知したほか、報道機関への投げ込みを行った。

(柴崎委員)

平成16年度の運営委員会は最後になるので、各委員からひとこと挨拶を。

(水谷委員)

サポートセンター立ち上げの検討委員会のときからの参加で、意見を戦わせながら作り上げてきて、楽しかった。軌道に乗ってからは、これまでと同じことをしなければならない大変さもある。利用者が増えたことは喜ばしい。今後も一市民としてかかわりたい。

(松澤委員)

素晴らしい場所を利用させていただいたご恩がえしのつもりで運営委員を努めた。今後も所属する団体の活動で利用させてもらう。

(細川委員)

いろいろな団体と交流ができるのが良かった。今後の運営委員会の在り方として、運営に強く働きかけができないかと思う。運営委員会を毎月1回開催しても良いと思っている。

(田中委員)

自分の所属団体で利用していたので、役立てればと委員になった。今後の運営委員会は、もう少し建設的な方向でアイデアを出し合い、みんなで作っていければと思っている。

(四分一委員)

任期期間中で印象に残っているのは、昨年度、サポートセンターの閉館時間を21時か22時にするかの議論をしたこと。利用者が安心して使える場としての意見を反映できた。サポートセンターが今後も発展していったらと思う。

(佐藤委員)

運営委員会のあり方をもっと良い方向にもっていったらと思う。団体にとっては、このような市民活動支援の施設があることはありがたい。

(江口委員)

6年間の任期のなかで、サポートセンターと市民団体の橋渡しを自分の役割と考え案内していった。人に説明する時は自分が理解していること、ロコミが一番のPRと思う。新しく運営委員になる方たちには、市民の感覚をもってサポートセンターに意見を言ってほしい。市も市民からの意見に耳を傾けてほしい。

(伊藤委員)

市民として、市民活動を一生懸命している人たちに触発された。地域の人たちにサポートセンターの宣伝ができたことが良かった。運営委員会の時間帯が平日の18時30分からというのは、仕事を持っている人には厳しい。

(石塚委員)

委員となってからサポートセンターをよく知ることができた。また、サポートセンターの運営は、市だけで行っているのではなく、市民が資料を検証し、運営に携わっているという実感を持った。

(新井委員)

検討委員会の時から6年間参加したが、いつでも使える市民活動支援の場所を市民の意見をとりいれながら立ち上げていく現場に立ち会えたことは楽しかったし、行政の変わり方を実感した。サポートセンターは、利用者が増加してきたことで新しい段階にきていると思う。市民にむけてのサポートセンター発信事業やサポートセンター主催での事業を考える時期にきているのではないかな。

(柴崎委員)

サポートセンターは安定期に入り、審議するべき事項がこの1年はあまりなかったように思う。是非、運営委員からサポートセンター運営への提案をしてほしいと思う。今回で退任する運営委員の方も今後もサポートセンターへの提言をよろしくお願ひしたい。

以上